

第9回 中国残留日本人への理解を深める集い

中国残留邦人 新支援策施行 15年、コスモスの会尼崎日本語教室 開設 15年

「支援・相談員の活動」

と き：2023年11月25日（土）
午後1時～4時半

と ころ：尼崎市立中央北生涯学習プラザ
1階大ホール
入場無料（予約不要）



残留孤児1世の重光 孝昭さん（左）と
韓 静さん（右）（日本語教室で）

高校生たちが作った映画「絆」

新支援策が施行された2008年、伊丹市の高校生たちが中国残留孤児のことを知ろうと
残留孤児の元を訪ねた短編映画

講演「残留孤児たちが闘った国賠訴訟と新支援策」

（コスモスの会代表 宗景 正）

講演「支援・相談員として活動した15年」

（尼崎市支援・相談員 韓 静さん）

新支援法施行に伴い、中国残留日本人の支援給付や生活相談で家庭など訪問する支援・相談員が
自治体に配置された。尼崎市の窓口でその業務に携わってこられた韓静さんのお話

対談交流「支援・相談員の支援活動」

兵庫県、大阪府等で活躍している支援・相談員の対談交流

（コーディネーター・司会 一橋大学大学院 山崎 哲さん）

◎ 1階ロビー展示

裁判を闘った「中国残留孤児」 撮影・宗景 正

期間：11月22日（水）～28日（火）午前9時～午後8時（最終日は午後5時）

主催：尼崎市（委託事業団体：コスモスの会尼崎日本語教室）

共催：近畿中国帰国者支援・交流センター

後援：尼崎市教育委員会

協賛：大阪中国帰国者センター

問合せ先：コスモスの会 石打謹也（090-7489-7091）

HP:<http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/kosumosu.html>

出演者プロフィール

韓 静さん

1970年 中国黒竜江省羅北県で生まれた。母は中国残留日本人孤児。高校卒業後、1989年父と母と兄の4人で日本に来ました。当時名古屋市にあった中国帰国者定着促進センターで4か月間日本の習慣や日本語を学んだ。その後身元保証人のいる伊丹市に定住した。2年間日本語学校に通い、1992年 神戸大学法学部入学し、1996年に神戸大学大学院 法学研究科修士課程に入学した。卒業後、1999年三菱電機 塚口製作所に勤めた。

2001年中国上海の法律事務所に転職し、その後日中合併企業で働いた。

2008年尼崎市が公募した中国残留邦人の支援・相談員に応募し採用された。

現在は尼崎市南部保健福祉センター南部福祉相談支援課で支援・相談員として勤務している。



山崎 哲さん

1985年東京都生まれの中国残留婦人三世。

日本語が苦手な両親、日本語と中国語を自由に使う祖母を幼少期から不思議に思いつつも、祖母が中国残留婦人という名で呼ばれる存在であることを18歳になって初めて知る。

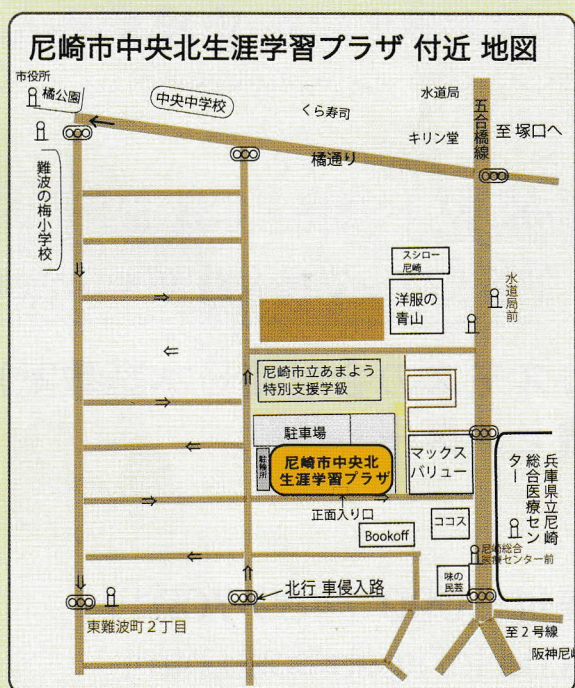
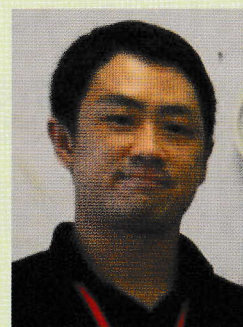
大学入学後に中国残留孤児・婦人のことを調べようとするも、国賠訴訟終結後という日本社会が中国残留日本人を忘れつつある時代の中においては、マスメディア報道数の減少もあり、「私につながる歴史」を知るのは困難な状態にあった。

それならば直接話を聞いてみたいと、大学院で中国帰国者について研究することを決意。

これまで、同じ三世に話を聞き、「私たち三世」はそれぞれ中国残留という家族の歴史と自らとをどのように意味付けて生きてきたのかについて論文にまとめてきた。

現在、「戦後世代の語り部」として中国残留邦人の歴史を伝える講和活動も行なっている。

NHK ETV 特集「わたしは誰 我是誰～中国残留邦人3世の問いかけ」(2018年)出演。



〈会場へのアクセス〉

尼崎市立中央北生涯学習プラザ

尼崎市東難波町2-14-1 (06-6482-1750)

JR神戸線

■立花駅(高架上)から15番「阪神尼崎(北)」行き「東難波2丁目」下車 徒歩約5分。

■立花駅(高架下)から43番「阪神尼崎(北)」行き「尼崎総合医療センター」下車 徒歩約3分。

■尼崎駅 4番乗り場から(50,50-2,50-3,50-4)の各番号「尼崎総合医療センター」下車 徒歩約3分。

阪神電車

■阪神尼崎駅から阪神バス13番「阪急塚口」行き「尼崎総合医療センター」下車 徒歩約2分。

阪急電車神戸線

■阪急塚口駅から阪神バス13番「阪神尼崎」行き「尼崎総合医療センター」下車 徒歩約3分。